令和８年度　海洋プラスチックごみ等流出抑制対策事業の結果概要について

［環境政策課］

１　事業の目的

環境省の調査によると、海洋ごみの８割は陸域で発生したごみが河川等を通じて海に流出したものとの報告があることから、市内の準用河川にオイルフェンスを設置し、流れるごみを回収のうえその実態を把握し、陸域から海洋への効果的なごみの流出防止に資することを目的とする。

また、小学生を対象とした特別授業を実施し、海洋ごみ問題の普及啓発を図る。

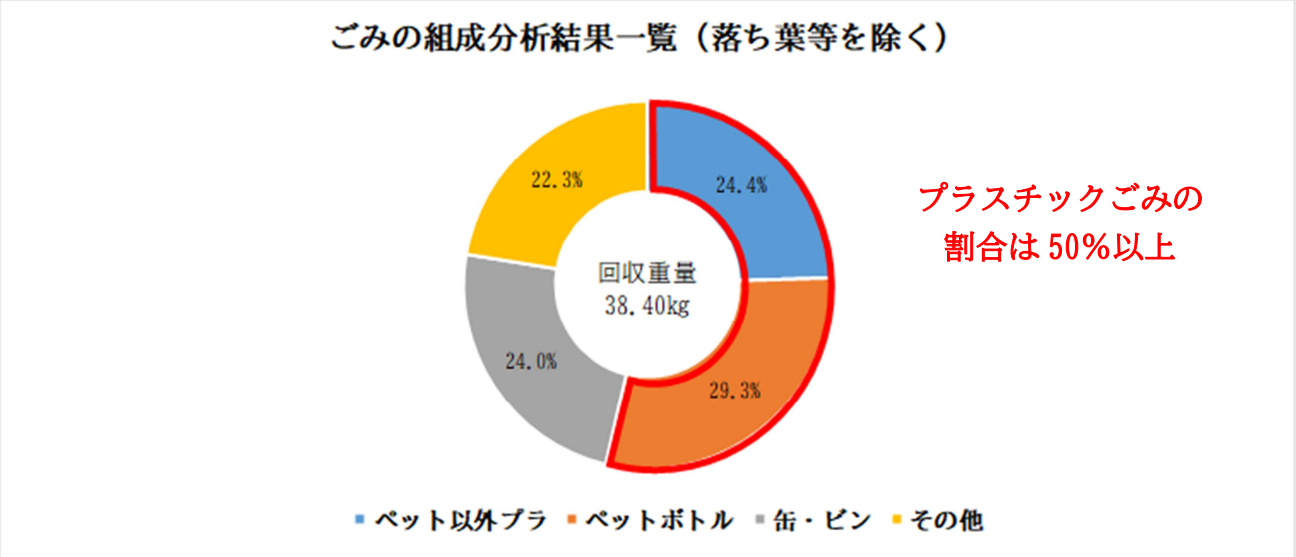
２　取組概要

＜オイルフェンスの設置＞

がめ川にオイルフェンスを令和８年６月１０日から８月１２日の間の約２カ月間設置した。ごみの回収については週１回を基本とし、荒天等による増水が予想された時にも事前のごみの回収を行った。

回収の結果、重量の合計は、発泡スチロールのトレイ等の「ペットボトル以外のプラスチック」が９．３５ｋｇ、「ペットボトル」が１１．２４ｋｇ、「缶・ビン」は９．２３ｋｇ、「その他」は８．５８ｋｇとなっている。（落ち葉等は１３．５６ｋｇ）

重量の割合（落ち葉等を除く）については、「ペットボトル以外のプラスチック」が２４．４％、「ペットボトル」が２９．３％、「缶・ビン」は２４．０％、「その他」は２２．３％となっている。



今回の調査では、落ち葉等を除くとペットボトル、空き缶、紙パック類が目立って回収された。これらは意図的に直接河川へ捨てられたもの、路上にポイ捨てされ雨風により河川へ流入したもの、コンビニエンスストア等のごみ箱や地域のごみ集積所から管理不足により漏れ出たものが河川に流入したと考えられる。回収された空き缶には、中央部に同様の潰され方をしたものがあったため、特定の人物が頻回に投棄したものと推察される。



回収したごみ全体（７月 21 日回収分）



プラスチックごみ（７月 30 日回収分）





空き缶とペットボトル（７月 21 日回収分）



紙パックや空箱のごみ（６月 17 日回収分）



食品トレイ等のごみ（７月９日回収分）

＜小学生への特別授業＞

環境教育の一環として、市では小学４～６年生を対象に「海洋ごみに関する小学生への特別授業」を行っている。令和８年度は３校（神保小学校、岩瀬小学校、藤ノ木小学校）から応募があり、特別授業を実施した。

①バスツアー（神保小学校、岩瀬小学校、藤ノ木小学校）

最初に、がめ川に設置してあるオイルフェンスを見学し、街中を流れる河川にごみが流れている現状を学んだ。その後、岩瀬浜へ移動し、砂浜に落ちているマイクロプラスチックの収集体験を行い、漂着するごみの実情を学んだ。最後に、エコタウン交流推進センターに場所を移し、振り返りを兼ねて海洋ごみに関する講義を受け、知識を深めた。



オイルフェンス見学



岩瀬浜でマイクロプラスチック収集体験

②ごみマップ作製（神保小学校、藤ノ木小学校）

通学路や馴染みのある道を歩き、海洋ごみにつながるごみが自分たちの校区に落ちていないかを調査した。「思ったよりもごみが多かった。」「ポイ捨てであろうごみがたくさんあった。」とのコメントが授業の終盤にあり、海洋ごみが自身の生活に密接にあることを学んだ。



校区を調査



ごみを分析



どこにごみがあったかを発表